

医史雜誌
一



全九册
一〇

490.4

I-3

1



No. 254

富士川文庫
626

醫事雜活一

浪速 岩永霍齋之房識

人皆人參能補スルヲ知テ亦能人ヲ害スルヲ不知貴
 女ノ家ニハ平昔人參ヲ用テ淫慾ヲ縱ニス一旦病生スル
 有時々即疑テ虚シタルト思ヒ愈人參ヲ用テ因テ大
 寒大抵共ニ伏シテ内ニ在リ始人參ヲ以テ病ヲ医シ既
 ニ藥ヲ用テ人參ヲ医ス本病ハ医スベケレ氏人參ノ病ニ医
 難シ

施藥ノ一節、醫ヲ擇テ主トス、若医藥ノ的當スルヲ明メテ



人ヲ利セハ最大也、倘止施藥ノ名ヲ沽テ、庸医ヲ以テ事ニ
 任シ、脈ヲ診ミ視ル_レ勿_レ忙ニ藥ヲ用ル_レ草率ニス、其
 過タル_レ甚シ、病有人ハ、醫師ヲ擇ニ_テ、最行要也、医
 不明ニシテ、藥不相應ナル時ハ、只ニ貼ニシテ人ヲ殺ス_レ
 有、若覺ナクシテ、医ヲナシ、言語ヲ以テ人ヲ哄キ、漫リニ
 藥ヲ施ス、其罪甚重シ、医ハ、魚ト人ヲ救フヘキ者ナリ、
 及テ人ヲ殺スハ、不及ヨリシテ、ノ_レ可_レ謹事也、

小兒痘症、噴逆危険ノ分テ有、トイヘ、氏實ニ寒熱虛實ノ
 異アリ、大凡發熱シ、点見ノ時、專保護スル_レニ非ス、

禁忌ヲ要トス、全ク門ヲ分テ、類ヲ別テ、治療スル_レ有
 若熱証ニ、妄ニ辛燥ヲ用ヒ、寒証ニ、誤テ苓連ヲ投、虛ニ
 則分解過度シ、實ニ補劑輕シク投ヘハ、掌ヲ及ノ間
 ニ、變患立起_ル、規ル_レ人_ノ心得ヘキ_レ共也、

凡自盜人、若繩細ク、痕深キ者ハ、最救ヒ難キト、稱ス、又云ク、且
 ヨリ暮ニ至レル者、治スベシ、夜ヨリ天明ニ至レル者、治
 シ難シ、急ニ人ヲシテ抱キ、臥、詰ヲ解キ、開キ、切ニ渴ヲ
 割断_レ勿_レレ、手ヲ以テ其項痕ヲ揉、氣管ヲ撫_ル圓
 ノ竝ニ、胸腹ヲナテ、按シ、或ハ手ヲ以テ其口鼻ヲ抑リ、

或ハ口ヲ用テ口ニ對シテ氣ヲ接シ一人ヲシテ御ヲ以テ
其兩肩ヲ踏手ヲ以テ其髮ヲ挽シメ常ニ扯テ急
ナラシメヨ頭ヲシテ低下ラシムヘカラス再ヒ一人ヲ
シテ後ヲ以テ其手ヲ蓋シメ厚ク衣被ニ裹シ監
クニ穀道ヲ住ルニ抵テ婦人ハ陰戸ニ先抵氣ヲ泄サシ
ムルヲ勿レ若シ手御已ニ僵直ヲ經ハ必ス須ク盤曲
スヘシ僧ノ打坐ノ形ノ如クナラハ急ニ兩管ヲ以テ其
兩身ヲ吹再ヒ半夏末皂角ノ末ヲ碾テ鼻ノ孔ニ吹
入針ノ尖ヲ以テ鼻下人中ノ穴ヲ刺シ艾ヲ以テ御心湧

泉ノ穴ヲ灸ス必ス氣クチヨリ出テ呼吸シ眼開クヲ待テ
方ニ手ヲ歇ベシ甦醒ノ後ハ只少シク粥湯ヲ飲シメ其咽
喉ヲ潤スヘシ驟ニ飲食ヲ禁フヘカラス

自ラ列ル人食類ヲ断者ハ治スヘシ氣類断者ハ治シカタク食
類氣類共ニ断者ハ更ニ治シ難シ

凡溺死ノ者夏天ハ救フヘシ冬天ハ救カタク撈起ス時切ニ倒ニ
控テ勿レ急シ口ヲ將テ搥開キ横ニ箸一雙ヲ啣セ
水ヲ出サシメ竹管ヲ以テ其兩身ヲ吹キ半夏末ヲ
鼻孔ニ吹キ置穀道ヲ吹シムヘシ

屍喪古廟墳塚空房冷窟瘞署荒園鬼神壇場祠社

池沼苔蘚醜藤蘿樹木ノ陰鬱セル杯ニ遇テ感シ

觸ルヲ經テ卒然ニ氣昏迷ス名テ中惡ト云フ驚死

者ヲ嚇煞ト名ク温酒ヲ以テ灌之治フトル也

余近時一人ヲ瘡ス河州ノ老僧年已ニ七十痛噎ヲ憂フ已ニ

四十日食スレハ忽咽ニツマリ食不下少ニツハツタイ又ハ

酒ナドヲ下ス漸ニシテ咽ヲ下ル去ナカラ老人ノ支殊ニ

不食故ニ大ニ疲勞シタリ種ノ治瘡ヲ施シ河州泉

州ノ痛ノ藥ナト用ヒ色ニスレ氏一向ニ不治京師上

リ醫師方エ十軒斗モ行治瘡ヲ頼ミ種ノムツカシキ

医按ノワリニ何分病ハナヲラス依テヒトマツ河州へ歸

リ彼藥モ日ニ貼許ツ用ヒ保養專ニセラレシガマ

ツ同様ナリサレトモ只ニ苦痛ノ故色トト大故ノ医者

治瘡ヲタノシ一月許也彼藥モセラレシ氏追ニ惡シ

折節余ニ治ヲ乞レシ故一檢セシガイカサマニモ平快ハム

ツカシキ者ノ様ナリ去ナカラ類リニ治ヲ頼ミ藥ヲ乞

レシ故無據セ味ノ清脾湯六貼ヲツカワシタリ我ナ

カラモイカナル附方ト思ヘトモ其終ニテ二日ヲ過キシガ

彼病者ヨリ使来リ、一書ヲ披見セシカ、昨宵ヨリ、快ヨク
 白粥咽ヲ下ル、一、碗、御蔭ニテ今朝ハ又気分能減、三、ケ
 月以來ニテ、食事コロヨク、咽ヲ下ル、一、ヲ得タル由申来、
 ル余モ不審ニ思ヒ、使ノ者ヨリ尋子シニ、矢張手翰ノ通り
 ヲ答フ、何分イカ、ニ思ヘトモ、矢張前方ヲ十貼バカリ、調
 合シテツカハシタリ、兩三日ノ後、老僧歩行ニテ前日息
 ヲ謝シニ来ラレタリ、余モ餘リノ一、故口外ハバガニトモ
 イワサリシカ、不思議ニ思ヒタリ、猶投藥、前劑ヲ投シ、
 只、一、ウレシサノ餘リ、多食ハ不宜ヘシ、只一度ニハ碗ニ一

碗ト定メ、半月ノ后、又少シ増シ、追、ニ増食然ルヘキヨシ
 ヲ渝シ置タリ、其後追、ニ平愈ノ由申来ル、猶前方
 ヲ投シテ、食禁先、ニ多食ヲイマシメ申ツカハシタリ、
 又其后使来リ、少シ様子異ニシテ、種氣ノモヨウカ、足、
 歩行シ難キト云、程ニモナケレ、凡、ホ水以前ヨリ少ク、復
 ハリテ空腹ニナキヨシヲ使ノ者ヨリ聞タリ、余モ今一
 段委クワカリカタシ、定テ自然ト食氣ヲ過ヒシヨリノ
 一、ナラント、前方ノ外ニ利水劑ヲ魚用サセタリ、五六日
 ノ後、追、ニ食量ハ進メ、凡、足ノアタリ、種氣見ル、由其

外同様ノ由依テ赤豆ヲ食セシメ米飯ハ一日ニ半碗
 許リヲ粥ニ煮食スヘシト同方利水湯ヲツカワシタリ
 又五六日ノ後容臑申来ル追ニ水気モ減シ快方ノ
 由余ヒタスラニ食禁^不多食ヲ守ルヘキヲキヒシク諭シ
 テ味清脾導水在苓許多ツカワシタリ後追ニ快復
 遂ニ隔噎ノ憂ヲ免レタリ是等理外ノ理也余モ不
 思議ナルヲニ覺テ七呆清脾主治ニモ^{三因}脾瘕嘔
 吐復滿痛等ノ症ヲ治スト有リ主治ヲ目アテニスル
 処モナシ只嘔吐アルニ自然食氣ノ受付ル莫モヤト藥

味ノ組合セハ只狗腸ノスクナラント思ヒ試ニ投薬シ
 タリシニ果シテ案外ニ的中シテ不治ノ病根絶シタリ
 奇ト云ヘシ病者此藥ヲ飲ト忽チ胸スキテ心ヨクト
 云ハン方ナシト云イカナル道理ノコヤ烏梅良姜ノ二
 呆ニテム子ノスキトナルカ余愚故合点ユカス去ナガラ
 二高輩ヲ試テ見タキ莫ニ思フ故ニ筆記シテ後考ヲ
 待ツ

翼年三月ノ比浪花本町壹丁目大和屋某老媪歳六十
 三一朝余カ門ニ来リ治ラ乞フ其澄ヲ問フニ咽喉

正食ツマリ、膈澄ニ相違ナキ者也、初発ヨリ、漸十余
 日、其内食ノ咽ニ下ラサル、更三日モアリテ、苦痛云ヘカ
 ラス、何卒治スル、更モアラハ、平快致シ度、更也、歲月
 ノカルハ、若シカラサレ、唯食咽ニ下ル、更ヲ得ハ、大幸ナ
 リト、頻リニ治ヲ乞ニ任セ、又七呆ノ清脾六貼ヲ投ス、翼
 日、来リテ、大ニ喜ヒ、御陰ニテ、食、更減ニ快ク咽ニ下リ、
 実、平愈ノ形ナリ、去ナカラ、今六貼ヲ服セ、実ニ
 病根ヲ失スルナラシト云、予モアマリニ不思議ナレ、
 前劑六貼ヲツカハシタリ、同人翼日亦来リテ、最

早常躰ニカハル、更ナシ、依テ休薬セント思フト云、予
 モ病者ノ意ニ任セシカ、ナシナク、平愈ニタリ、如何ニモ、妙
 ナルト思ヒテ、同志ニモ、語リタリ、其后ハ外症発セシカ
 不知、猶試ニタク思フ

攝州尼崎ニ瘤タ、キト、秘シテ、乳頭ノ形ノ如クシナシ、夫ニテ日
 ニ、瘤心ヲ叩ケ、ハ、終ニ散リ、又ハ發膿シテ、治スルト云、
 ヲ、予先年ヨリ、聞及ヒ居タリ、イカナルモノカト、只
 其法ヲ得タク思ヒ、多年ニカケ、吟味スレ、共行ス、
 然處、天保四己春、或老人、瘤ヲ取傳ヲ予ニ授ク、其

方山梳子仁一味六分新汲水一碗浸之夏兩日汗

其度筆首及雲ノ如クムバノ如ク色々出ルヲ取り、瘤

上エ羽毛或鉄漿筆ヲ以テヒク夏数次ル時ハ連

日ノ内必消散スルカ又ハ發膿スルカニテ治スル者ナ

リト或大家ノ秘方ナレト相傳セシムルナリト云

予モ魚テ吟味イタシ居タリシ所謂瘤々、キナラン

ト雀躍ヲナシテ病者ニ試シント思ヒ居タリシニ又

一人瘤ヲ病婦人ノ出来リ頃者西宮邊ヨリ一ノ奇

藥ヲ得タリ、瘤叩ト名ケテ乳頭ノ如ク夫ヲ水ニ浸

シテ瘤ヲ叩クニ治セスト云夏ナキヨシ或人持来ニテ

頻リニ進メラレケル共一向ニ奇藥故ニ素人ノ夏又跡

ニテ如何ナル患ノ出来テ後悔ストモセシ無キ夏ニテ

世ノ人ノ笑ニナルモ耻多ク且ハ治スルト聞ケハ用ヒテ

モ見タク又案スレハ丈ニヲソロシク両端ニカ、リテ一向ニ

心迷ヒ一決ツカマツリ申サス一向ニ此叩藥ヲ止テ外ニ

ヨシキ治方モ候ヤ其上明后日ヨリ、江戸表エ用向ニツキ

出立イタシ度故只ヒイカ、致シ然ヘキヤ、於察ノ上然ヘ

クサシツ致シ異ト擾ナク故自由ヲ願フトノ夏故先瘤

ノ一胎セシ処、痰、癰テ、隨分ト瘰治モナル程ナレ氏咽喉
 任脉ヨリ少シ右ヘヨリ、馬刀瘰ノ如ク、形長ク大ナル故、
 切モナラス、殊ニ遠足モ一兩日ノ内ニ出立ノ由故、余カ治
 瘰モ行ト、キ不申、先ナニカナシニ叩薬ヲ道中ノ駕ノ
 中ニテ、日ニ用テヒ、飯帆ノ上、治療ヲ施シ申ヘキヨシヲ
 申シ聞ケタリ、病者大抵ハ承知ノ様子ナレ氏、只瘰ノ奇ヲ
 懼ル、様ニ見ヘタリ、依テ、予先年ヨリ心ニ掛テ尋子イル
 叩薬ノ旨ヲ申キカセタレ、少、業堵ノ様子ニテ、予カ申
 スニ隨ヒ、道中ニテ試シニ毎日叩、其上ニテ亦ニ歸帆上

御治瘰ヲ、御願ヒ申ヘキヨシ、去ナカラ奇方ヲ、御一覽
 下サレ度トノ、夏ニテ、紙包ノ叩薬ヲ見セラレタリ、形ハサ
 ラシノ切ニ包ニ、乳頭ノ如ク、カノタ、キ粉ヲ入レタル如シ、以
 上セ本アリ、粉薬トニテ、色白ク、天花粉ノ如ク、又白凡
 ノ如ク、石羔ノ如ク、味モ淡シテ、何共不詳、尤山田瘰藥
 ノ如ク、減ノ有用ヒタリシ跡、モトヘ返却スルカ、又ハ大道
 十字街ヘ棄ルカ、河中ヘ投スルカ、必薬ヲ見ル故、古又ヲ
 禁シ、且神ヲ取テ、薬ヲ用ユヘシ、左モナク、カロ、シク取
 アツカウ時ハ、効驗ナキヨシ、余モ初思ヒ居タリシト、相

違ナレ氏一家ノ奇方ノ故先、是ヲ用ヒテ、後ノ夏
 然ルヘキ由ヲ答タリ、病者其夏ニ決シテ飯ル翌年
 正月ノ始ニ病者来リタリ、一脛スルニ瘡跡方モナシ予
 如何ニ下問ヘハ、病者云ク、仰ノ通江府道ノ道中、日夜ニ
 叩居タリシニ、江戸エ着、后廿日許ニシテ、色次第ニ赤シ
 ナリ、皮薄クギロヒト、光沢出テ、疼モ強クイカサマニ膿
 汁有ルカ如シ、頻ニ叩クニ、夕疼苦忍フヘカラス、折節
 其夜、發膿シテ、白濃多出テ、凝結シタル白色ノ物、或
 白色ノ筋ノ如キモノ、種々出テ、形大ニ減シタリ、去ナカラ
 今一般、詰核取カナタリ、依テ今一段ヲイカ、致シヨロシ
 キヤ、云、実ニ藥効有、猶此後ハ外貼ニ膏ヲ張リテ、内
 服ヨロシカルヘシトテ、柴胡清肝湯、加青皮、沙參、羊角
 湯ヲ服サシメ、猶家方水藥ヲ引セタリ、一月汗
 ニシテ、跡形モナク平快シタリ、此叩藥ト云モノイカナルモノ
 ヤ、奇藥ナリ、猶考フルニ、前方ノ物トハ異ニシテ、唯、押モ
 ノナランカ、押ツヨキ故ニ、據ナク上ノ方ヘ潰エタルナラムカ、
 后人發明モ有ルナラント思フ、僕、筆記スル者也、
 此病人初登ヨリ、京師、萩野河内守、治癒ノ由、余リ久

シキ故、予ニ於テ頼ムヘシトテ、病者来リタルナリ、主方ハ
 予モ同方ノ、紫清肝湯加芍夏枯草也、至極ノ附方也、
 氣腫結核、皆此湯有大効、殊乃東主治癰癧ニ妙
 効有モノ也、去ヤカラ、夏枯草、菜肆ノ者、多ク、陰州
 夏枯草ト稱スルモノニテ、和名ウツホ草也、山野路^旁多シ、
 真ノ夏枯草ト云モノハ、和名ジウニヒトヘト呼モノニテ、近
 野、田畝路傍ニ産セス、夫故藥店ノモノハ、皆ウツホ草也、
 効能ハ、真ノ夏枯草トハ、大ニ劣ルマンサラキカヌニテハ
 ナク、シユレ氏流注シテ、秋長クナリ、深毒ノモノハ、秋長大ニ

ナル、予モ六七斤許モ試シタリ、多股スレハ、少ハ効モアル
 ナレ氏、何分真夏枯草ニ及ハス、京地、白川山、或ハ鞍馬、西
 山ナトニ有リ、河州、金剛山ニモ自生有、何分藥用ニスル
 ホト無ニ困リタルモノ也、藥品ハ、何分真偽ヲ擇ハスニハ
 有ヘカラス、夏枯草ナトハ、據ナク、陰州夏枯草ヲ
 カリ用ユルモノ也、真夏^枯草ニシクハナシ、

惣シテ、藥品能ニ擇フヘシ、藥肆ノモノハ、カリ用ルモノ多シ、
 細辛、和産ト稱シテ、杜衡ヲ賣ル、和ノ、黄ハ、大ドク
 サニテ、大ニ相違ノ者也、浮萍ハ、滿江^紅、和名赤ウキクサト

云モノヲ賣香蕪犬抵ハ犬カウシエ多シ蛇床子ハノニ
 シシノ実ヲカリ用ヒ下品ノ圭支ハ葶艸根皮多ク
 山飯末ハ菽莢ヲ賣リ其外種多シ能ヒ心ヲ用テ
 擇フヘシ病症依リ誤テ投シ命ヲ損スルモ人無
 ニシモアラスカロヒシク價ノ下廉ヲ好テ雜藥ヲ用
 エハカラス謹シムヘシ

近時余羚羊角ヲ用テ治毒症数人ヲ治シタリ頃者瘡
 治茶淡ヲ閱スルニ羚羊角効多ク説且本綱ヲ
 引ケリ解毒ノ場合暗合スホ窓雜活ヲ閱スルニ

羚羊角ト肝火ニツレテ啗飲ノ胸膈エ逼リタルヲ
 峻ニ押下ス者也故ニ生芩犀角羚羊ナト組合ニ妙也
 具合也ト有金近時症驗ノ方ノニ筆記ス
 唇上治毒頭上治毒鼻上治毒耳后治毒何レモ初
 起ヨリ二月ヲ経テ不愈症ニテ金龜胆湯加羚羊ヲ
 用ヒテ数人ヲ治シタリ

小児カフト瘡ト称シ頭上ニ面ニ瘡ヲ生シ或口辺上下左右
 ノ瘡婦人血閉杯ノ後生スル有大人小児ヲ不論大
 克飲加羚羊角ヲ用テイツモ効ヲ取ル也

肝氣強者、大人小兒ヲ不論、抑肝加羚羊角妙也、

大人酒毒ニ依テ、瘡ヲ発シ、又揚梅瘡毒ヲ魚ルニ、防風

通聖散加羚羊角ヲ用テ、妙ニ功有、

婦人氣腫、結核ニ、紫胡、清肝、青皮、香附子、羚羊角

或、拖子、清肝湯、前加減有、大効、

骨槽風、或齒痛等、七味、涼隔散、石羔、羚羊角有功、

婦人血風瘡、或口中咽喉痛等、大發寒熱、生末、

食咽ヲ不下ナト、西物湯加空煎、羚羊、毎ニ功有、

小兒驚搐、羚羊角散、或赤丸子、羚羊、独煎、又安

神丸、羚羊角、煎ヲ用テ、毎ニ効ヲ取レリ、

羚羊角散方 著 余 鈴 國老 已上水煎

惣シテ、腫物、一切血氣、血熱、動揺者、托裏消毒加

羚羊大ニ妙也、

腹暴急ノ症ニ、西逸、羚羊角、又三和散、羚羊大ニ功有、

肩背疼痛、凝結強者、御藥院、羚羊角散有功、

外障、氣毒上攻、眼杯ニ、清上、防風、羚羊、又紫清肝、鈴

羊ニテ、功ヲ取ル也、是ハ、多ハ、歳月ヲ、満タサル物ニ、効

多シ、以上ハ、予、近來用テ、効ヲ取タル者ノ、シテ、記ス、猶

此外効モ多カラニ追ニ症ニ隨テ工夫ヲ凝シ用ヒ十八
 格別ニ面白キモノト覺入本草調目云久服強筋骨
 又云中風筋急附骨疼痛作末密服又云治小
 兒驚癇云云又平肝舒筋定風云云又治子癇
 疾又散產后惡血衝心煩悶燒末酒服之又肉之主
 治之條曰治筋骨急強中風云云又治小便不利云云
 又本草調目發明條曰時鈴羊火畜也而鈴羊則
 屬木故其角入厥陰肝經甚捷同氣相求也肝主
 木開竅于目其癸病也目暗障翳而鈴羊角能

平之肝主風在合為筋其癸病也小兒驚癇婦
 人子癇大人中風搐搦及筋脉急歷節製痛而鈴
 羊角能舒之魂者肝之神也癸病則驚駭不寧
 狂越僻謬魘寐卒死而鈴羊能安之血者肝
 之臟也癸病則瘀滯下注心痛毒痢瘡腫癭癧
 產後血氣而鈴羊能散之相火寄于肝胆在氣
 為怒病則煩懣氣逆噎塞不通寒熱及傷寒伏
 熱而鈴羊能下之鈴之性靈而筋骨之精在角故
 又能辟邪惡而解諸毒碎仙牙而燒烟走蛇虺也

本姓別録著其功而近俗罕能發揚惜哉云云

療治茶淡六編經驗セシ病症ヲノセタリ見ルベシ

天保三冬一僧奇疾ヲ瘥ス其性默シテ天熏薄弱之人也一夕

空中ニ雷声ノ如ク覺テ依テ他ノ人ニ向テ更ニ無シト云

サレ氏時分ニ雷声耳ニ集キ晝夜片時モ斷スト云時

ナシ尤肝強キ人故イヨクニ氣ニサハリ一室ニ篋リ閉居

ヲ更トス閉居スレハ倍マス甚シキ様ニ覺テ依テ又察

ナトへ出レ氏一向ニ甚シク赫爾トシテマキル、更ナシ如

此ナル更三四十日許追々甚シク後ニ雷声頭上又足

下ニ在天晝トナク夜トナク心氣赫爾濛昏トシテ若

腦日ニ增長ス亦赫爾タル内ニ他ヨリ自分之名ヲ呼フ

ガ如ク覺ユル故ニ答ント思フ時ハ雷声ノコトニ呼者モナ

恙ヲ取直シ称名ヲトナヘ眼ヲトケトスレハ亦先ノ如ク

亦不思答フル時モアリ又時分胸中ニナニカ答ル者

ノ有力如ク既ニ答ヘント欲シテ心附ク時モアリ或ハ人

サヤキテモノ言フ如キ時モアリ日ハ夜ニ種ニ奇異

ノ更又多シサレ氏食氣ハ常ニ変ル更モナシ夫故格

別憔悴スル程ニ外見ニ變リタル更モナケレ氏自分ニ

ハ殊ノ外、難義ニテ、禪堂ニテ坐禪ハ申ニ及ハス朝
 タノ勤人書見ハ勿論、何モテキス、後ニ頭痛モ發
 シ、或ハ腹變急シテ、夜寐ル、更モ少ク、餘リ難義
 ナル故、醫師カタニ治療ヲ願フ、何レノ醫師モ肝氣
 ノ元故ノ更ナリトテ、沈香類、或ハ平肝ノ劑、或ハ抑
 肝散、数百貼ヲ服スレ共、何ノ功モナク、又ハ心氣不足
 虚候ナリトテ、一医ハ補劑、或ハ医王類、既六七医モ於
 察治療ヲ願シカ、凡更ニ變リタル更モナシ、依テ賣
 藥類モ大分ニ服用セシカ共、是ニモ何ノ効モ見ズ、殆

ニト、醫者メクリセント、浪花ノ大家ヲ行シカ、又ハ蘭方
 扱ヨカラント、五六軒行テ、於察ヲ願ヒシカ、凡格別感入
 ル様ノ医案モナク、只今迄ノ医案ニカ、ハリタル更モナ
 ク、不審余カ家ニ来リテ、治ヲ乞フ、余モカル奇疾ヲ
 治シタルナケレ、凡何モ研窮ノ一ナルカ、故予思、按述ス
 病症予ハ何モ病名ヲ不知、依テ湯液モ附方テキス
 奇症故、奇方ヲ用テ、ハイカントサレ、凡治不治ハ、先用ヒテ、後
 ノ更ト思ハレヨ、先今宵ヨリ、一七日ノ間、此香ヲ焼テ、一室ニ
 静坐セラレヨ、又夜中トテモ、夕ヘツレナク、一室ニタキテ、絶ヘ

又様然ルヘキ側ラ銀葉ナトニ香ヲ焼ク如シテ寢ニツク
 共余烟香氣ノ施ヘサルヲヨシトスヘシト能シ申シキカシ
 テ幸ニ先年ヨリ藏セル安息香一塊ヲ興ヘタリ僧奇
 ナルヲ喜ンテ懐ニシテ去ル一七日ニシテ来ルナラント思
 居シ二月ヲ経テ僧来レリ依テ奇疾ノ輕重ヲ問ニ
 僧誠ニ低頭平身シテ云フ扱、難在夏共也余カ奇
 疾御カケニテ平快シテ雷声ハ申ニ及ス心清快然前
 ニ倍ス先生ノ御恩不可忘脚誠ニ再生トヤイワンカ、
 ル嬉シキ夏ノアルヘキヤ抑モ御香ヲ賜ル夜一炷ハ額上

ヲモクシテ頭痛ニモカマハウカト思フ位ノ処ニ更比ニシテ
 不思議安眠シテ一睡ト思ヒシハ翌朝ニテ日ハ東山ヨリ
 ノホリテ殆ント五ツ比ナリ朝ノ飯ナト認メスルニ大抵
 平素ノ如ク遠ク空中ニテ東クカト思フ如ク過半治シ
 タルト申位也餘リ平愈ノ速ナルト奇ナル夏ト且ニ三
 月モ寢ニツカスト快ヨク睡眠シタル嬉シサト只不思
 議ナル夏ト感シ夢カ現ツカ疾カ夢カト茫然トシ
 テ黙坐シタルトコロへ同窓ノ僧追ニ出来リ訪ニ昨
 日ノ件ニ且岩永先生ノ一活ヲ語り共ニ不思議ヲ

淡シタリ猶懈ルマシキ夏ト一七日焼キ静坐致シ
 久レハ遂ニ全快シタリ折シモ同寮ノ雲水有夏ツ
 キ且禪師ノ命ノ點シカタキ夏ノイテキテ直サマ
 播洲明石エマカリコシ段ト師用自用モ便シ書寫
 山ヘモ登リ彼是一見フトケ今日飯路ナリ餘リ御
 礼ノ遅ニ及ヒシハ前件ノ通り罪ハ御ユルシ下サレ
 度何分高恩ハ忘ルヘカラス扱安息香ト云モ人
 如何ナル功能ヤカル奇疾ヲ治スルノ不思議ナル
 實ニ奇ト云フヘシ其効能許多有ヘシ如何カシテ

カク速ニ治スルヤト問入予モ別ニ考フル道モナケレ共某
 性心氣ヲ蕩カスルモノト見ユ元来肝氣ノ元ル性故種
 ニノ奇ナル夏ヲ覺ヘシモノナラン全ク應シタルハ夏ニ大
 幸ト云フヘシ

往昔山城比叡山一老僧夜寢ル夏不能種湯液
 丸丹医術ヲツクセ凡不治或人安息香ヲ一室ニ熏
 シ試ルヘキ由ヲ傳フ依テ熏スル夏十夜追ニ心氣
 静寂寢ニツク様ニナリタリ或夜夢ニ白衣道人
 来リテ云クコノコロヨシナキ人ノ教ニ依テ香ヲ熏スル

故チカツタ夏アタワス、後来亦来ルマシキ由ヲ云フテ、
 忽然トシテ去ル、其后夢モ見スママ、徹夜ナル夏モナ
 ク、遂ニ治シタリ、奇談ト云フヘシ、又寛政ノ比、京師生
 嶋大藏卿ナルモノ、カノ僧ト同シク、夜寝ル夏不能是
 モ種ニ治療シケレ、氏不治ヨリテ、此安息香ヲ焚ク夏、
 三日ニシテ治シタリ、後他ノ疾ニテ没故セラレタリ、此ノ
 西活予少年ノ頃ヨリ聞及ヒタリ、僧如客ノ疾トハ
 異ナレ、予試シニシカ薰セタリ、幸ニシテ大効アリ、普通
 肝氣ノ元リニテ、寝ラレヌ人多クアルモノ也、其内奇

ツカヌル症ニ焚セテ、効アリ、普通寝ラレス症ニ、忘乎
 志膏屢ニ用ルニ効ヲ取リタリ、安息香ヲ薰シ、家中
 ノ氣聚ルモノ上品ト聞ク、未試、

薄茶濃茶スヘテ、茶性冷ナル故タマ、喫シテ復中ヲ冷スエ
 ニ眠ル夏ナラヌ様ニナルト云、予ハサニ非スト思入、茶
 味苦澀ノ味ニテ、腹中シメラル、故心気爽ヤカニナリ
 テ、眠ラレヌヤウニナルモノ也、多ク喫シテ腹中冷ニハナ
 ラズ、寝ラレヌ比翌日、眠ムタクナキト云ガ、茶ノ一徳
 也、世間梅毒家ハ必ナラヌ、茶ヲ飲ム夏ヲ禁ズ、山

飯来ヲ服スル人ハ左モ有ルヘシ格別深毒ナラサルニ
必薄茶煎茶ヲ禁シ却テ晚茶ヲ吞人アリ笑フ
ヘシ晚茶ハ四季ヲ不攝取り收メ別シテ炭気灰汁
多シ必禁シテシカルヘシ世間僂心得千カヒ多シ去
レ氏知リツ毒禁ヲ犯スモノヨリ可ナラム乎

近來烹撰ノ間病者多シ殊ニ大坂黴毒腫物ノ病江
戸烹師ニ倍スルハ昇平ツキテ世間一統心氣ヲ
動シ只物取セテ迫リ天功ヲ盜シ心ヲ勞シ肝部
ノ元リ倍ス甚シクソノウヘ物ニ奢リツヨクイツトナ

ク馴ニナリテ珍シキモノモ珍トセス身ニモ美服ヲ厭
ハス美食ヲ夏トシ夫モタラス却テ賤食ヲ珍果ト
スルヤウニナリ六七十年来食セサル鳥獸儀魚或蟹
龜鴉ノ類マテ食用トナシテサク夷狭人蛮人ニモ
劣ラス様ニナリテ来リタリ其ウ上大坂土地食品
ヲ夏トシ惡水故烹地ニ比スレハ腫物黴毒多キ道
理也心得テ保養スレハ必ナラス病子ハナラメト云夏
ハナキモノ也兔角足ルヲシラス多クハ食品ヲ貪リ
不養生ヨリ大夏ニ及フヤウニナル也命ハ食ニ有リ

食ハ命ニアリ、宣ナルクナユノ道理ヲ能ク會得シテ
病者教誨シ、自然ニ邵康節ノイハレシ、百二十年ノ
定命ヲ保タハ大幸ナラム

文政年間、京攝ノ間、秋ヨリ翌年迄、三日コロリト秘スル
卒病流行ス、其初発ヨリ三日ニハ死スル故、俚俗カク
呼ビテセリ、其病症時疫、温疫ノ如ク、又卒中ノ如ク
名状スヌカラズ、医モトカクフルウケニハ危篤ニ至ル死
スル者、至知教、不知ソノ后、能ク考フル、矢張、痧病ニ
テ、絞脹、痧ノ痧病ニ委シカラズ、故ニ皆救ハサルニ

至リシ也、古方家ハ即痲熱病ト云ヒ、或ハ陰症ノ疫又ハ疝
中氣ナトサマ、名状セシカモ、附方的中セズ、タマヒ
刺路セシモノニカヲ取りタルアリ、全ク痧病ノ類ナ
ラム、天保ノ比、七日コロリト秘スル者有、此モ、矢張
疫症也

近來蘭学大ニヒラケ、治術ニ益アリ、又奇術多クシテ
人信セサルモ有、左モ有ヘシ、一概ニ誹ルヘカラス、只其
善キヲ擇ンテ用ル時、人ヲ救フニ足レリ、其術ニ
委シカラズシテ、漫リニ試ル時、人ヲソコノス

廣ク其要ヲ撮ニテ治法ヲ行フ時ハ人ヲ救ス莫

多キニ有リ元來本邦ノ人ヲ異邦同変ニ思フテ

治ヲ施ス故ニ倭人ヲ誤ル莫アリ心得ヘキ也

關牛兒苗ニ初発ニ効アリ中コロヨリ後ハ却テ不應水

揚梅ノハウカ効アルヨシ予ハ未試試口ムヘシ提肩

散モ多服シタレヒサシテ効ナキ様覺ス

野靱豆虚腫ニヨキトイヘ共是モ餘リ効ヲ取リタル莫

モキカス矢張実腫ハ能應スルモノ也

蒟蒻接骨葉服スレハ下利スルモノ也シメルモノ乎棠

実ノ下リニ合トハ大ニ緩也マニサラ無効ト云程ニモナ

シ他ノ藥性ニ連用スル時ハ應スル莫有

京師保壽院山科玄棟ナル人ノ活ニ或日參殿セシニ御名ヲ傳ル

御鼻ノ中ニ白豆水誤テ翻入シタルト云上下駱

動ニ撞ニ手ヲ悉シ上下大ニ駱動ニカシサシナトヲ用

テ取ラントスルホト奥ク入リテ一向ニ出ル莫ア

タハス次第ニ豆ハ大ニナリテ猶ヒイテス大ニ上下ア

ハテサハギタル処ニ折節伺ヒタリシカバスクサマ伺ヒ仰ツ

ケラレ治癒申アクヘキ由仰セラレ故エ夫ヲムクラシ

懐中ニ用意シタリシ巨椒末ヲ吹管ヲ以テ鼻中
ニ頻リニ吹カケシニ追々嚏出テタリ、数ニ嚏ノイッル
拍子ニ翻出シタリ、因テ上下大ニ其即智ヲ感
セリト云ヘリ、元棟子書生ヘノシメシニ巨椒末ヲ
常ニ懐中スヘキ夏ト活シセラレタリ、多クハ猪牙
皂莢末ヲ用ユルナレト、巨椒モ又面唇ニ

風毒ノ劇症ハ甚シキモノ也、先年浪花道修早健屋
利兵衛丁稚十二歳ナル者、一夕風呂ノ火ヲ焚、居
タリシニ忽チ耳ノ後腫ルニ様ニ覺ス、テ熱氣アリ、

アツキマ、手拭ニ水ヲ浸シ腫ル、処ヲ、サヘシニ又左ノ
方腫ル、故左ノ方ヲ、サルト思ヘ、右ノ方腫ル、人
集リテ色ヒニスレト、向ヒカズ、依テ治療ヲ頼ミ、未
ルニ於セシニ面色赭色、六脉大浮、数外ニカワル、夏ナシ
サレト見テ居ルウチニ左右ノ耳后ヨリ咽喉下ニムケ
テ腫ル、夏奇ト云ヘシ、腫ル時ハ疼モツヨク堪ヘ難キ
ヨシ、故先ノラントインカンフルヲ用テ、頻リニ寒散スレ
ト、暫時ハ腫レモ減スル様ニ見ユルナレト、忽チ亦腫ル、
夏故ノ如シ、依テ尺澤髮際ヲ刺絡シタリ、漸ク

シテ腫レ定リタリ、翌朝於察セシカ、形全ク風毒腫
 ニテ日ヲ追テ次第ニ膿化シツイニ無難ニ治シタリ、ケ
 様ノ風毒腫ハ珍シキ者也、按ルニ外ヨリ風呂ナトシテ
 焚火勢ニテ皮膚ノ間ノ血氣動揺強クシテ一時
 劇シク浮腫シタ者也、刺路シテ血氣ノ勢ヒ少シク
 減シタル故ニ浮腫モ定リタ者也ナラム、一時ハ奇疾ノ
 様ニ見ヘタリ、

世上一般痢病ト云テ居ル者ニ疝ヨリ来ツテ瀉スル有、疝
 瀉ト云エテハ疝瀉トマキル、夏アリ、能クワカ

ツヘシ重急後重ノ様子、并ニ赤白ナメナトエ合能
 似タリ、只舌胎食呆カラサルト、夜間湿マル時ハ痢
 ニホラサルトカ、少シ痢ト相違也、腰痛、絞痛モ
 有、コノ症下劑強キトキ、肛門反花ナトスル者也、復
 候ニ因テ附子ナト大ニ應スル者也、三和散加麩牛兒
 或附子ナト大ニ効アリ、何レ外ヨリハ燒塩ハシ又ハ
 温砒ナトニテ、亟慰ハル、夏妙也、疝家燒酒ヲ吞
 テ夫ヨリ裏急後重、大熱、大汗、真ニ痢症ニ
 マキル、者有也、能ク考フヘシ

槐花疔疾ニ能効アリ、地榆ヨリハ能應スルヤウニ覺ス、
別シテ母痔痒痛ナトニ能効ヲ奏ス、

膝ノ膏藥ニ感フル、症ハ必水氣多人必傷フル也、外科

正氣ニ木性ノ人ハ必傷ル、トアレ、氏必ス木性ノ人ニカ

ギラス、水氣多キ人ハ傷ル也、病名彙解ニ正氣ノ木性ヲ
コトヤクカブレノ漢名トスルハ誤

疔毒症ニ桂ノ身根類ヲ用ユル時ハ其毒勢四方ニ走散シ

毒氣廣クナリ、自然乾嘔、大ハ便遠ク、妄渚咳嗽、

汗多、面色赤色、逆上ヤ、モスレハ血暈ノ如クナル

様ニナレ、犬ニ危篤ニナル者也、謹ムヘキ也、終誤

テカクノ如クナル也、多シ心得テ投藥大也、

導水管ヲ用ユルニ世医油ヲ導水管ニ引テ用ユル通例也、

余ハ矢張海羅汁ヲ塗テ用ユル至極捷法也、

小兒肛門及花ノ手術ニテ脩ルハ大ニ面働ニ六且疼

強ク自由ニ手術ヲ施シカタク、殊ニ及花一兩日ノ後

ハ腫ヲ生シテ、猶更ヲサメ難シ、余工夫シテありユ

ス、貼シ内藥ニ提肛散、槐花ヲ服サシム、一時ニ

ハラサマラ子氏三五日スレハ自然トヲサマル也、小兒

モ心抱シ安ク又面働少シ

黄連黄芩ト連用セヌ時ハ浮心ノ名々多クカラズ
 辛夷ト云モノ多鼻病ニ用ヒ来リ有リ一向ニキカヌ者也
 浪花中ノ島玉江橋辺相良候藩中廣沢氏ナ者眼
 ノ癆治ルニ足ノ裏ヲ藁ニテ薰スルハ次第ニ
 氣ヲ降氣シテ全愈スル有此藁ハ相良ノ産
 ニテ他ノ品ニテハ効ナキ由土産ノ異ナル奇ト称ス
 ヘシ内障ナトハ治シカタケレモ氣ヨリ来リ連
 マクナド有ルハ必ス治ス如何ナル藁ノ効能ナ
 ル者ヤ煎後シテハ効モ少ナキ乎后人ノ流ッ侍

者也

京師和田泰純ト云醫師豪傑ノ人也医術追ヒニ世鳴
 リ遂ニ禁裏御所ヨリ召サレ拜聆仰ツケラル
 後太子御誕生ノ節御上方ハ鬼角結溝ニキ
 テ箔布ノシニテ御育故何レノ宮様方ニテモ
 御薄弱故民間ノ育テカク宜シカルヘキトテ
 先格ヲ瘥以籍規ニ悉ク御衣服ヲ江木錦ニ替ヘ
 遂ニ御誕生後御湯ノ後臍上ヘ艾灸ヲ施
 ス等スヘテ民間ノ仕方ヲ献ス一時一流御取ア

ケ六ヶ敷、夏ナリケルカ、遂ニ自分存念通ニイタシ
後暫クハ御機嫌モ宜シカリシカ、天眞御薄弱
ナルク故、遂ニ崩御ナル惜哉、是ヨリ已来、泰此ノ
仕方悪敷トテ、已前ノ例トナル由

産婆、大坂ナトハ、近來、迎モ小見、浴湯ヲサセルニ、産婆
而足ヲ盥ノ中、エハイリ、ヒサヨリ下へお見ヲウツフ
セテ、浴湯サセル、是古風也、古画ナトモ、多ク如
此画カケリ、近來、文化ノ末、比ヨリ、点師、御産婆
ハ、手掌ニモタラシテ、一切足ノ應接ナシ、滅ニ其自在

ナル夏、感スヘシ、予幼年、比近ハ、矢張、足ノ猿頭ノ
処ヘウツフシニシテ、浴湯サセタリシテ、見、寛ヘ居
タリ、近來、一見セシニ、皆手掌ニモタラセ、浴湯ヲ
施入手、輕キ上ニ、甚ヒヨシ、又御上方ノ御産ノ、即
是上ニテ、應接スル、イカサマ不敬ナリ、コレハ、点師ニ
倣ヒテ、手掌ニモタラセ、浴湯サセタキ、夏也、点師
テモ、若狭石見ノ産婆ヨリ、初リシカ、大坂ニテモ
采女ナト云テ、殊外、上手ノ由ニテ、其、余門人モ多
カリシカ、是モ浴湯サセシヲ、見シニ、矢張、点師ト異

ニシテ足ノ應接ハカル夏ナシ古凡ナレトモ京師ノ
如クシタキモノ也加川流カ何レノ流儀カ産婦ヲ
便器工ノセテ産セシムル有是ハ不宜妊婦肛門
及花シテ不宜産後産門兔角ニ無異ニスマス
心得ヘキ夏也

小兒初生舌上ヲ能々洗フヘシ世上一流紗ノ切ヲ用ユ
ルハ不宜の矢張り晒シノ能々モメテ柔カキモノ
ヲ用ユヘシ紗ハコハ妙シテ痛モ有テ却テ宜シカ
ラス鵝口瘡ナドシテキタルハ猶更晒ノ古キレニ如

クナシ是モ毎ニ試シテ善ヲ知レリ予近來野蠶繭ヲ

用是最上ノ品也サラシマサル

太田从壽院法印碩安御医ニ仰ツケラレ宮様方ヲ伺ヒ奉ル

御初生何レモ伺ノ節御衣被ヲノツキテ裸躰ニテ

一辺口中ヨリ脊中腰臀手足掌中ヲ改メ見テ

後ニ御脉御腹部ヲ伺フ事ハ素ヨリ何レモ如

此スル也至極聞ヘタル夏也他ノ医ハ如此シテ伺ハス

故法印一人也猶太田家ノ聆候ノ例トナリテ今モ太

田肥後守典系大属モ伺ノ節ハ如此シテ伺フ也ナ

ニ改カクノ如クスルト云ニ往年堀川竹屋町街皆山元
 七方一ニ産ス一向ニ乳汁ヲ哺セスイロヒト小兒科ニ
 治法ヲ求ムルニトカクスルト鼻ヨリ乳汁出テ一向ニ舌ニ
 卷テ哺乳シカシ一医ナルモ人種ニエ支ラレテ治癒セシ
 由サレトモトカク喫シカスル様子也一時太田家工、胎察
 シ顯テニ来リタリ例ノ如ク改メラレタリレカ、初生ナ
 カラ口中止會壓ナレサルカ故ニ氣道一時、乳汁
 オトハレシテムセル也依テ鼻ヨリ出ル舌モ有リ人食
 分ナキ故ニ如此乳汁ヲ喫シカ子タリ、乳味湯ハソロ
 用ニハ喫ス病容始テ口中ヲ見テ驚咳スカヤツ

ノ舌毎有リ或ハ蝨ノ為ニ發熱スル有又ハ黒痕
 アル有或ハ瘤アル有リ又ハ胎毒腫ノ催ニテ疼ム
 アリ種々ツカヌ舌アリ依テ能ヒ心ヲ付テ一遍看
 ル舌至極面白キ着法也太家ナトニテハムゴキ様ニテ
 トカク思フ様ニセヌ者也殊ニ寒中ナトハ入思フ
 様ニサヌ者也

小兒解顱長大ノ者ハ治キ難キ者也藥氣ノ急ト、
 カヌ者ニテ早キハ隨分治スル者ナレ氏眼モツリア

カリ、白眼ハカリニナリタルハ、猶、治シ難シ、外臺
秘要、鮮鬪熨法、一向ニキ、カヌル者也、

世俗、地黄ヲ收スレバ、大根ヲ食スル、夏ヲ禁ス、已ニ本綱目

ニモ云ヘリ、サレモ服スル人、大ニ面働カリテ、毎ニ洗得

ニコマリタリ、或時、煎自然汁ノ中、然地黄ヲ入レ置テ

試シタリシテ、某ハ服色黒クナレモ、然昔ハ消スル道ニ

ハ不及、依テ大抵ハ苦シカルマシク思ヒシニ、往年大和

ノ人、地黄ヲ多ク作クリテ、利倍ヲ求メシトテ、大ニ

世活シ、倍養シテ、掘来ニ、昔根少シヤモナシ、或ハ腐リ

或ハ輕虚ニシテ、藥用ニナリカタク、大ニ損セリ、能ク吟

味セシカ、大根ニ、畝ニ植タリ、未三年満タサル、畝ナルヨシ

サルカ故ニ、悉ク消ヘシト云ヘリ、此ノ一活ノ夏ヲ思フハ

矢張禁スルニシクハナシ、地黄大根、一時ニ食スレハ、白

髮ニナルト云ハ、妄語乎、只藥氣薄クシテ、應シカタ

クナル物ナラシ

京師、醫師、中上右内、ナト、熱病トシルト、多ク灌水ヲサ

セタリ、何レモ無効ノミナラス、皆死シタリ、只兩人許

瘡ヲ患ヒタルモノニ、灌水サセタリシカ、水ヲアヒ

久石ハ震慄シテ齒ノ根モアハヌ位ニフルヒテ跡
 ヨリ大熱出ニ三日ニシテ治シタリ九州辺ニテハ瘡ヲ
 病ト忽チ河へ入りテ水ニ浴シ夫ヨリ大熱ヲ登レ大
 汗出テ、愈ルト云、商日ノ活ナリ去ナカラ、虚実ノ
 分別モ有ヘシ、安リニ為スヘカラサル也、民間辺鄙
 ノ土地ハ是非モナシ、医師タルモノ、施スヘキ夏ニ非ス
 但馬ノ奥、名ヲ辺鄙ノ百姓家ニ井坂次郎右兵衛門方ヨ
 リ、虎屋伊藏製ノ羊羹一棹ヲ送ラレタリ、後
 先方ヨリ、別段ニ頼ノ書状来リ、詰溝丸御膏

藥ヲ下サレ大腫物追ニ平愈、殊ニ痛シモエルモ
 別シテ奇効也、今一剂求メクレトノ書状ニテ一跪仰
 天シテ、一笑セラレタリト、田間不自由ノ土地ニテ、分、
 ル間、凌モ有ルカ、実ニ一笑シタリ、痛ヲトルト云ハ、
 砂糖ニ膏ノ氣ニテ、ユルマリタル乎、所謂イワシノ頭
 モ、神心トカ云ハ、是等ナラン、

高師下京ニ前川ト云、醫師アリ、格別名医ニモ非サレ、
 シヨコニシテ、業ヲ行ス下僕六七年来モ奉公シ
 テ、篤実ノ性質也、其僕心中ニ医ヲ学ヒ度心有

天長ク奉公ス、素ヨリ一点モ引ス一字モ讀メス、只
心中ニハ家秘方ヲ得テ后、開業セント日ニ仕フル
夏、敬苦ニシテ、恰銀ナトヲ蓄ヘ、丹心組ニシテ
居レ共、主人ハ更ニ不知、或夏土用中ニ書物ヲ虫
乾シセラレシカ、僕私ニ思フヤウ、此ノ書籍ノウケ必
ス秘書有ヘシ、此ヲ私ニ竊シ去テ、医ヲ開業セント
欲シ、遂ニ翌日衣服并一書ヲ携ヘイツク共モ無
出去ル、主人其故ヲ不知、只不審ニシテ淋シカニ三月
後、或人ヨリ、彼ノ僕ハ去処ニテ開業シテ、殊ニ流行

門前ニ市ヲ為ス位ノ夏也トノ沙汰ニテ、倍不審晴
レス、彼僕ハ篤実一通ノ生質ニテ、文字ハ一字一点モ
存セス亦讀夏アタハス、何等ノ術アツテ、流行ニ及
フ哉、研窮之ヒマモナク、実ニ奇夏ニテ、不審也、猶
不日ニ人ヲツカワシ、及^呼ヨセテ、委シク聞ントテ、五六日ノ
後、人ヲツカハシケレハ、何サマ病客モ多ク聚リテ、流
行ノ躰也、在宿之様子故、主人ヨリノ委曲ヲ申達
スルニ、當人誠ニ前日ノ罪ヲ謝シ、志面ナク、御傳書
御陰ニテ、如此医業流行ニ及ヒシ也、尚不日ニ卷館

シテ罪ヲ謝スヘキ由ヲ答ヘ一兩日ノ後来リテ只主恩ノ
厚恩并他日傳書ヲ盗ミ去リシ罪ヲ謝スル更頻
リ也主人ノ云ク其盜ミ去リシ傳書トハ何カ別ニ左
程ノ書ヲ出シ置カス又夫程ノ書モ讀メカタルヘシ
全鮓何ト云書ナリヤト頻ニヨ守テラシタリシカ其傳
書ト申スハ即テ是也懷中ヨリ出シテ見セシニ主人
一見シテ大ニ嘆服シテ曰ク此ノ書ニテ医術行ハレシト
云ス實ニ不思儀也コレハ是ニ京簿圖也是ヲ以テ如何
カシテ主方ナルマサレハ別ニ書ヲ讀ミテ不知故ニ柴

胡為某為根當歸甘ツノ五果ヲ手掌中ニ
ツカシ心中ニ祈念シテ圖投ス圖中中央ノ角ナル
外へ出タルモノハ不應某トシテ中央角圖中ノ者
許スニヒツ、病者ニ投薬ス諸病他方ナシ唯
此一方ノシヲ投ス素ヨリ他薬ヲ不知故ニナニ病ニ
逢テモ是ニ也妙ニ治スル故不思儀病容多ク未
リ治ラ乞ス全ク御傳書ノ御カケ也只鮓ノハ次血
ニ去リシ罪ヲ免シタマヘカシ頻ニ希テ不止主モ大ニ
アキレ實ニ不思儀ト云フヘシ次血ニ去リシ書ハ医書

ニ兼テ惜ムニ足ラス去ナカラ今ヨリハ少し文学ナク
テハアシカルヘシ追ヒニ教授スヘシ只尔カ心神ノ徹シタ
ル故諸病ノ治シタル也トテ大笑セラレ後ハ自分ノ
姓ノ一字ヲ譲リ前田何某ト名ノリ遂ニ医ニナリ
タル由或人ノ一話也珍敷マ、此ニ贅言ス

文音ニシテハ医モ六ツカシキモ也一医亀狩ノ病者ニ葛根湯
ヲ投薬セシ人有如何ト問フニ其人云ク頃昔強凡
トト有主治ヲ表的トセシト答ヘタリコレモ面白キト云
タキモナレ氏大笑ナルニ堪タリ是等ハ論外ト云

フヘシ

近頃吉益南涯気血水ヲ唱ヘラレタリ何ノ病モ不随當モ
多カルヘシ腫物ニマ、気血水ノ場合モ有ル又有去
ナカラ天張萬毒唯一毒ノ説可也京都宇都城
太一郎ハ風寒熱ト唱ヘテ或浮屠子医業ニナリ
久人有テ地水火風ト唱ヘシアリ是等ハ仙者ノ
説ニシテ取ルニタラス一箇ノ見識モ有タキモノナレ氏餘
リ鑿説附會モ不面白山脈東洋清祥助ナト
ハナルホト一時ノ傑物也同日ノ談ニアラス

俗説云山脇石コ結ト云フハ山東洋石焦ヲ用ヒ始
メラレタリ其比殊ノ外澤山ニ求メラレテ土藏中ニ
充テアマリ床ノ下マデモシキツメタル故ニ山脇ノ石
コヅメト言ヘリ種々其比ノ面白キ活シヲ聞キタシ
共忘却ス

先年、鷹司前關白前後様御不例ノ折、御不便閉
セラレタリ、荻野河内守本某ニ人卷ヲ倍加セン
ト云フ、和田泰純ハ附子ヲ倍加セント云フ、諸説紛
々、議論倍甚シ、時ニ外科大專淳伯曰ク、外科ノ

議論待テトヲナリト云テ、遂ニ自カラ、口ヲカケテハ
便ヲ吹ヒ出サレタリ、遂ニナシナク、御不便通利アリテ
御平快ナラセラル、今時カヤウノ外科ハ至テ稀也ト
テ、人々稱嘆セラレタリ、ナル程ユノ後、淳伯おトノ
外科、京師ニハ少シ

三都ノ外、浪花ホト、腫物、黴毒、雜病ノ多キ土地ハナシ、江
戸ハ疥癩至テ多ク、流行病時ニアリ、京地ハ水氣清
潔ナル故、黴毒ハ少シ、山辺故、劇症ノ熱病多シ
又ハ人氣上下共、嚴密温和ナルエ合アリテ、諸夏

氣ヲ用ユル故カ、氣病ハ多シ。土地山嵐瘴氣有ル故カ、霍乱病ナト、浪花ニ比スレハ病ム人多シ。

小兒、夜小便ヲ不覺取ハツス者多シ。實ハ内部下症冷者乎、温ナル物乎、冷ハ不覺取ハツシ、餌食サシテ温ムレト、却テ連夜ニ丸者有、干牛或牛肉、種々藥汁ニテモ應シカヌルモノ也。其ツテ、輕症ハ鹿胎霜又ハ猪鹿肉又鹿糞又ハ塗酒ノ類、又一二度用ヒテ治スルハ輕症也。又其親或ハ乳母初生ヨリ自墮落ヲ事トシテ、所謂タレナカシ育テニセシム、其子モ

タレタナリニシテ安睡ス、親モ子モ濡レテモ其マ、臭氣モカマハス、自分ノ温氣ニテ乾クマタ其上ヘタレルト云メ、ガクセナリテハ、歳九歳ニナリテモ、寢入ト忽チ小便ヲ取中ハズス、短夜長夜ノ分チモナク、ジキニ取分ス。是等ハ、只ヒカルハカリテ行ス度、目ヲ覺サセテ連行クニシカス。尤夜分ニ、毎夜猪ノ眼、龜ノ尾ニ灸ヲ施スベシ。二年ヲコトラス施ス時ハ、大抵甚シキモノニテモ治ス。後部ノ灸モ可也。大抵一ヶ処ノ灸ニ十五汗リツ、ハ毎夜三年汗ツケテ灸ヲスル時ハ、大抵治セメト云。古ナ

シ大麥ニルニモ及ハス夕飯ノ度ヲ定ム夕方塩醬油
 ニ辛物ヲ食スルヲ禁シ湯茶ヲ喫スルヲ禁スベシ或一
 家秘方ニ龜ノ卵ヲ取リ煮テ食用セシムル方有至
 極能キク方也是症ハ脾胃ハ寒シテ下症ノ虛冷
 ナル者ニ龜肉卵共葱白ト同煮テ食也大ニ効アリ
 脾胃虛弱ニシテ下症ノ冷ナル者ニ一應ヤニ應テ
 ハコタヘス矢張灸治ノ効マサヒリ兎角並餅服菓
 ヨリ連年灸ヲ施シ食量ヲ定メテ脾胃ノシマ
 リヲツクルヤウニスルカ治方ノ捷方也

液臭ノ人多ク有モノ也婦人ハ誤テ治スル時ハ陰臭トナル又
 男子ハ狐液治シ誤ルト臍臭或口臭トナルモノ有
 去ナカラ治方数方アリ近來試シタリシニ能應
 スレ共其人ニ向テハ隱徳ノ一ツト思ヘ凡言ヒニクキモノ
 ナリ

浪華痲症科、又近時マス、癡狂者ノミヲ瘥ス、十人
 ノ内一人全快スル乎、全キヲ見ス自然ヨリ、猛升永
 丹ヲ服サシムルカ末病ナリタルヲ診察シ皆言治不
 治、齒ノ色、茶褐ヨリ少黒色、舌縮マリ、執勢強

飲食下ラス、脈微細ニシテ、閉ゲタル状也。是ノ裸骨ニ灸有リ、是心ニアルモアリ、歩行ヲ禁シタルタメノ灸トシテ、病客ハ皆是ノ腫物ヨリシテ、難治ニナルヨウニ心得イレド、愚見ニハ全ク藥石ノ毒ニ當リテ再ヒ救フヘカラル姿ト見ユル心得ヘキコト共也。毎度腫物ト云ヒテ申来リ、度々觀及ヒタリ。

女御御所、御平誕後、御水腫ニテ、御水閉、奥道逸、導水管ヲ上ケタリ、先例有リヤ不知、先后是レカ始リカト思入。天保三巳年ノ夏也。

太田双壽院故法印、玳瑁ヲ折節用ヒラレタリ、何ニ應ハル知ラス、近時大属典藥肥後守、折節ハ玳瑁ヲ用ヒラル、其効ヲヨ得テシニ、痘灌膿シカタキニ用ヒテ、應功アリト云、其比東本願寺姫君ニ用ヒラレタリ、大ニ効ヲ取リタリト洛ラレタリ、尚追々輕驗ヲ見タキモノ也、玳瑁ハ至陰ノ物也、皆水ヨリシテ生シタル者ニテ、一腫ノ靈物也、故ニ効モ多カラシ乎、今道人用ヒカヌルモノ而已ナラス、其効ヲ知人少ナシ、追々ニ廣ク用ヒテ、人ヲ助クル後世ノ普世ノ大効、是ヨリ大ナルナシ。

浪花、医痘、腫膿三日、目甚惡、敷越カタキ、模様故無
方ニ有合セシ、鮮谷ヲケツリ、契扱セタル、其夜ヨ
リ、程能腫膿シテ、全快シタリ、又一人、病家ノ痘見、是
ノ見モ幸ニシテ、全快シタリ、鮮谷ノ功、尤モ未相分
尚、輕驗アレカシトテ、或、医予ニ、語レリ

太田、久壽院、小兒、盛夏、霍乱ノ如ク、中暑ヨリシテ、大熱、脉
大浮、數、頭上汗アルニ似テ、汗ナク、惡風ナトモ有ルカ
如ク、膝理ナニトナクシハ、如、此ヲナシヨリタルヨウニテ、
渴モアリ、腹部、手ヲ焚カ如ク、舌上、白胎アリテ、黃

胎ニ至ラサル症ニ、茹苓湯、一名、需苓湯、田、葛、石、羔、又ハ

葛根湯ニ、半夏、石羔ヲ用ヒラレ、毎度、大効アリ、舌

胎、黃胎ナルモノハ、此ノ湯ニテハ、不應、煎師ニテハ、此症

多クアリ、山嵐、瘴氣、淹土、地、故、高、地ニ多シ、大阪ニテ

ハ、向ニ少シ、先年、大人、霍乱症ニテ、前症ノ如キ、高階

荻野、兩人、色ニイタシ、申セトモ、追ニ惡敷ナリタリ

此病者、久壽院ニ、男、太田、主善、予カ、叔父也、茹苓湯

ニ、半夏、石羔、六貼ニシテ、忽快、渡シタリ、荻野、河内

守、餘リ、即功ノ、不思議ヲ感シテ、其方ヲワザニ、傳

子ニ来ラレタリ人 予近来如此症ニ用ヒ數人死テ取ル

光浦先生遺稿

擇乳母法

孫真人曰。乳母形色所宜。其候甚多。不可求備。但取不
胡臭。癭癭。氣嗽。痛疔。癡癰。白禿。瘰癧。潘唇。耳聾。
鼯鼻。顛痛。無此等疾。使可飲兒也。師見其故。灸癰。
使知其先疾之治也。

錢氏曰。大抵擇乳母。一切禁忌不可用。胡狐。癭癭。腋氣。
喘呻。嗽病者。及身體疥癬。頭瘡。髮少。缺唇。耳聾。嗜
唾。鼯鼻。凡顛痛病。独眼。聾瘡。麻風毒。跛足。龜胸。駝

疥。鬼形惡貌等疾。皆不可乳兒。除此外皆可用也。緣
染之久。藏性亦同。恰如接木之造化。不可不擇。按如缺
唇。如眼

不得已不必忌。但如痘痕
甚者宜避之。

思案。乳汁之於童幼。其所關係莫重焉。與之不
節。尚能成病。况有毒之乳。將涸之乳。豈可使之
近耶。擇之之術。不可不詳。且盡矣。其形有數種。

囊長大如懸突。囊間容一指者。名曰伯乳。俗呼曰
於字佐

志。囊不大不長。如覆鐘。間容二指者。名曰仲乳。俗
呼

曰知字
佐志囊短小。如覆杯。間容三指者。名曰季乳。俗呼
曰古

既也
餘與餘同

志。囊本萎餒。未垂下。間可容掌者。名曰懸乳。俗
呼

曰多
知頭如小束者為上。如腐亂揚梅子大者。或塌

不可撮。全然無頭者。皆為下。如頭赤。以延漫

潤大而紫黑鮮潤者為上。如垢黑煙薰者。皆

為下。如汁以清稀白色而味淡者為上。有濃白。有

隨。如攪米粉者。清稀而粘膠者。帶黃色者。如

聞胡臭者。味之甜者。帶酸味者。皆為下。可麾去

焉。欲獲其佳。乳所謂仲乳者。而囊本根於胸

腋。業之有力而神色悅澤。青筋延蔓。肌膚

餽也別作餽
餽也別作餽
非也

哲白。漲溢飽滿。勢如洪流之將決。捏之細數
條。或十餘條。直射丈外者。正為雋乳。而欲知
汁之及久遠。即令餓兒餵之。待其汁之涸而捏之。
條猶能遠射者。方可保其久遠矣。伯乳亦能遠
射。然且滴。此不可必保其久遠矣。又有囊房萎
垂。如渴涸而條能射。此則前雋乳而今僅存
餘焰耳。此老乳也。又有囊雖漲滿。如腫瘍之狀。胸
次無餘勢。捏之滴瀝不能射。汁濃而有渣者。或
能射不過于二三條。汁稀而無味者。此宿乳也。蓋

欲賣其涸乳。固結腹絆。宿昔停蓄也。試可令餓
兒餵之。飲無餘滴。此不可不知也。或有令不出
于膈。偽形與汁。善且美。而捏之滴瀝不能射
者。亦不久而必涸矣。此依乳婦宿疾。而欲擠乳
者。診其脉腹可知焉。如其半產。及傷墮之汁。必
白濁。滴瀝如屋漏。其涸可立而疾矣。尚有能延
過乎一臘者。而亦鮮矣。然而所謂雋乳者。十
常難獲。一不得已而撰於季伯之間。近於善
者。可採用。一切禁忌不得少寬假焉。其如懸乳。

老乳固不得在撰中。其餘不待言也。吁古之擇乳母。不過言乎其痾疾惡貌之不可取。至於汁形之美惡。未嘗見有其詳。且盡者矣。或有之。而予之固陋。未及見之歟。今就所見聞。僅拳其二。一為。抑夫有毒之乳而不屏。涸細之乳而憚再擇。使嬰兒百疾蜂起。枯瘦憔悴。而或至不起。豈所謂閔傷之不大且重者乎。

男庭之補正

東野和田氏乳相說

自蕉窓雜話中抄出

妬乳吹乳ト同シ夏也。只契ヲ持テ腫ル、ヲ云也。乳相ヲ試ルハ先タレテ、ハ惡シ、甚垂レタルハ夏ナト乳汁クサリテ見ニアタルモノ也。不相應ニ乳ヲサノ大ニ、完一ツアルハ必乳汁ナキモノ也。屢試ルニ皆然リ、サシ乳ト云モノ佳シ、是ニ大サシ、ハザシアリ、ハザシト云モノサラニ佳シ、完數十四五モアルハ最ヨシ、兎角サツサト、乳汁ノ出ルヲ佳トス、

乳ト乳ノ根ノ間行キ合テ、其間ノスカヌハ、根廣キ故佳シ、
 シチ、ト云、甚見知リガタキモノ也、此乳ハ最アシ、是ヲ
 漢文ニシテシレハ、名付テ肉乳ト云ベキヤウナル者也、至テ美
 シク青筋立テ佳キ乳ト見ヘテモ、トクトヒ子リテ見レハ、
 肉脹メアルモノ也、肉脹シテアル故、皮肉ノ分ヲツマニ知ガ
 タシ、此乳ハ汁少キ故、必其兒羸瘦スルモノ也、佳キ乳ハ何
 ホト脹リテモ、皮ト肉トハ、知レルモノ也、
 又産婦ノ乳、挾起リカタキモノアリ、トカク内ヘ引込テ、
 表ヘ浮キガタキモノアリ、

産後俄ニ乳汁ノ多ク出ルハ、暫時ニアカルモノ也、三日モシテ
 カラソロコト出ルモノ、佳シト知ルベシ、

以上雜話

山科撰荒館主人曰、一安君也、乳汁ヲ漆器ニ移シ、
 淡白ニ粘ヒ人ギラナキ者ヲ吉トス、乳頭暈大者吉、穴數
 數十者良、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一嬰兒右ノ耳ト眼トノ間上ノ方大陽經ノ筋ニ當リテ一瘤

ヲ生ス形不大漸胡挑核ノ大ノ如ク亦疼痛ナク痒

シモナシ一日蘭陵先生ノ宅ニ至リ一於ヲ乞フ先生一

於シテ云ク是真ノ血瘤也容易ニ輕ニシク瘡スヘカラス

併ナカラ此僂テ擽ヲクモ如何也自然蚊ノ為所敷

出血ナド有之テハ莫如之何能ハ心ヲ附ヘキヨシ其附

添フ者ニサトサレケレハ不得已連レ飯リキ其夜三更ノ

比頻ニ戸ヲ叩人ヲシテ問之シム今朝名連レ其後隨

分蚊ノ用心ヲ致シ心ヲ附居シニ如何致シカキ候哉先

尅ヨリ其痛ヨリ血出テ中ニ血留モ及ヒ不申、只恐
 動迷惑仕リ居ルヨシ、依テ不得已、先生病家ニ至テ
 病児ヲ一診ス、其母ナルモノ、痛ヒテ指ニテヲサヘ居ニ被
 上ニ面ノ出血、誠ニ水ノ涌出ルヨリモ甚シク、指ヲハナセ
 バ、瘡口ヨリ一寸バカリモホト走ル、脉上微細、直視面色
 青サメ、手足微冷ヲ帶、先ツ奠湯補血劑ヲ一貼
 進メ、指ヲ以テ、瘡口ヲヲサヘ、稍出血ノ勢ヒ少シユル
 処ヲ待テ、止血膏ヲ以テ、瘡口ニ貼ス、漸ク止マリ少ニ
 シム位ニナル、其ヒヲ卷木綿ニテ卷置、翌日一診セシメ
 出血其後止リシ由、直様藥線ヲ以テ、痛根ヨリ活ル
 其上ヨリ膏ヲ貼シ、四五日ニシテ、痛脱ス、其后十余日
 ヲ経テ、全ク愈、更ニ跡カタナシ、幸ニメ一死ヲ免レ、
 其家喜テ不止、

内疝散、疝家ニ能應スル藥也、サレ共服スル人、其苦味ニ
 堪カ子、且酒ニテ服スル、夏益々ヘカタシ、予近コロ、氷
 砂糖煎汁ヲ以テ、服用セシムルニ、大ニ飲ヨク、酒ヨリ
 八ニ段ユルニ強ク、屢効アリ、

土州吾川郡久礼浦、漢夫新藏ノ妻、三十三歳、
名美津ト呼

曩^ニ夫死ノ父母ノ家同浦船頭本ニ二月ハル遺腹ノ

子ヲ乃子ム九月ニ至リ實文政十二年巳偶感時行風

毒左ノ助下ヨリ腰背ニ延テ腫起シ過經年ヲ越

ヘテ三十日カ以テ腰監骨上際ニ潰唐寅正月尔后

十日ヲ歷テ分晚ス同日ニ其凡毒腫ヲ發シ且濃

止ムサマ家人最臨辱ノ慮ヲ為ストモ免身甚ヤ

スク大ニ幸ヲ得ルトス尔後又數日ヲ歷テ腫上リ膿

口ナヲ愈ヘサルニ附テ卒然トシテ坚硬ノ物ヲ出ス

時三月婦以手探之以為腐骨也トヒソカニ其弟要

助ヲ呼涕泣シテ告曰汝見之我瘡口腐骨ヲ出命

生ヘキノ理ナシト弟コレヲ見レハ炯筒ノ吸口也弟

驚キヲソレテヨ母思スルニ阿妙四年前文政十年丁亥狂

症ヲ患ヘシニ日走来テ号叫シテ云我吞炯管而

在胸中何有生理乎披襟示之聽者不信惟狂

妄ノ言也トス今コレヲ以テ此ヲシレハ其言實ニ不妄

誕ト心ヲ定テ尉シテ曰ク以歡トスヘシ是ハ大姉往年

所吞ノ炯筒四年未腹裡ニ潛伏スル者也今幸ニ

膿口ヨリ自出スル莫ヲ得ル也實ニ腹中ノ大

害ヲ除ク何ヲ以テ患トセン大姉壽百歳ヲ保タシ夏疑
 フヘカラス婦於是意少焉弟曰村ノ医者諏訪寺
 田ノ西生ヲ延テ之ヲ診察セシムルニ兩匠相共之ヲ引
 拽シ竹管ノ一処ニ至リ出ル夏六寸計ニシテ誰出亦痛
 楚不可忍其既ニ所出拒格難措ヲ以テ全竹繼續
 スル者五寸許切テ之ヲ取リソノ腹裡ニユリ有處
 ノ断処ハ線ヲ以テ之ヲ縛メ以テ没入セサラシメ予カ
 前日風毒腫ノ治ヲ施ヲ以テ詳ニ其状ヲ告炯筒
 ノ残スル処ノ者ヲ外科ノ術ヲ以テ之ヲ出サシムラ

清入即至テ日夜手術ヲ施シ終ニ為四断取之計ルニ
 長サ九寸八歩後所取大頭極テ大ニシテ骨際ニ推苗
 シ右轉スルハ出左轉スルハ入宛モ螺螄轉ノ如ク手術
 甚限メリ於是其竹管断折之處以推子横ニ小穴
 ヲ穿鯁骨著ヲツクリテ以テ穴ニツラヌキ拒メ以
 没入セサラシメ紙捻數条ニ膏ヲ塗り迴管刺之置
 一夜極竟掙メ而拔復ニ而功ヲ收ス衆皆喝萬
 歳時同月十二日ノ五ノナリ尔来瘡口漸愈廿日ヲ過常ニ腹全
 之之

烟管長九寸八步、吹口ノ胴マワリ一寸弱

雁首、マワリ一寸一步、弱圖略之

右点師真道逸門人ヨリ申来由、真道逸ヨリ借傳

寫スナリ人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 真道逸 and 雁首]

